学校長様
児童支援専任・生徒指導専任様
特別支援教育コーディネーター様
養護教諭様

令和６年１月 16 日　第３号
横浜市立浦舟特別支援学校

連携支援だより

新しい年を迎えました。学校はこれから年度末へ向け、多忙な日々が続きます。浦舟特別支援学校連携支援部でも、今年度の研修のまとめ、次年度の研修の企画を始める時期となっています。

昨年 10 月 25 日には、昭和大学大学院の副島賢和先生を講師にお迎えし、「病弱教育を通して考える子どもの心と連携」をテーマにお話しいただきました。

第２回　「学校と医療の連携」
～病弱教育を通して考える子どもの心と連携～
昭和大学大学院保健医療学研究科
准教授　　副島賢和　氏

病気のある子どもに教育は必要ですか？

・子どもが子どもでいられることは「子どもの尊厳・人権」
・学びや遊びには自分で選ぶ、自分で決めるがたくさん入る。自己選択、自己決定が自尊感情を育む。
・何かができる、わかるという社会的自尊感情だけでなく、自分の存在を大切に思える基本的自尊感情も大切である。
・学ぶことは生きること。子どもにとってのあたりまえを支える。

回復・成長を支える SCHool）

・Safety　　:安心と安全
　　『今』を大切にする。
　　行動には理由がある（行動と言葉は見えるが、心は見えない）。
・Challenge :選択と挑戦
　　どんな感情も大切にする関わり
　　見えない心や感情を読み取り、言語化する手伝いをする。
　　どんな感情も受容するが、よくない行動は容認しない。
・Hope　　:日常の充実と将来の希望
　　援助希求（「助けて」「手伝って」と言ってもいい）

ひとりじゃないよ

・「助けて」と言っていい。失敗していい。あなたはあなたのままで OK。（基本的自尊感情を育む）

連携

・病気のある子どもはどの校種にもいる。
・子どもも一員のチームモデル。(家族、教師、友だち、心理士、地域、医師、看護師、SW、PT、OT・・・)
・わたしたちも今の仲間、時間、空間を大切に。

「勝負どころは子どもが自分をだめだと思っている時！」「今日という日はだれにっとってもはじめての日なのだから・・・」という副島先生のことばがとても印象的な研修でもありました。病気がある子どもだけではなく全ての子どもに関わる全ての先生方が、目の前の子どもを理解し、支援するために有意義な研修であったなら嬉しく思います。多くの先生方にご参加いただきました。ありがとうございました。

お知らせとお願い

浦舟特別支援学校には学区がなく、４つの病院（横浜市立大学附属市民総合医療センター・横浜市立大学附属病院・横浜市立市民病院・横浜市立みなと赤十字病院）の院内学級、そのほかの横浜市内の中核病院に入院しているお子さんには訪問指導学級で授業を行っています。また、病気が原因で学校生活に困難を抱えているお子さんへの支援について、一緒に考えさせていただくセンター的機能の役割を全市に対して担っております。利用を迷う場合にも、ぜひお声かけください。

また、浦舟特別支援学校で学ぶお子さんが、退院後に戻る学校で困らないよう、さまざまなお願い（学習進度をうかがったり、学習プリントやおたよりの送付をお願いしたり）をすることがあります。転出後は、お子さんが安心して元の学校に戻れるよう、学校の先生方にも不安なくあたたかくお子さんを迎えていただけるよう復学支援やアフター・フォローの充実に努めています。お子さんのために連携を密にしていきたいと考えております。お忙しい中とは存じますが、小・中学校の先生方にはご協力をお願いしております。これまでご協力をいただいている先生方には感謝を申し上げるとともに、引き続きのご協力をお願いいたします。

教育相談について

病気が理由で、市内の病院に入院しているお子さん、登校ができていても病気に対する配慮が必要なお子さんについて、教育相談を受け付けています。
学校だけでなく、保護者からの相談も受け付けておりますので、ぜひご紹介ください。

担当：浦舟特別支援学校　特別支援教育コーディネーター　鈴木　　TEL　243-2624

＊お手数ですが、貴校全職員への回覧をお願いいたします。